

5 団体打合せ会議（第 2 回実務者会議）課題資料

一般社団法人日本介護支援専門員協会

ケアプラン策定における
リハビリテーションニーズ（解決すべき生活の課題）の例
とリハビリ専門職種に期待したい事の例

要支援 要介護度	よく遭遇するリハビリテーションニーズの例	リハビリテーション専門職種に期待するところ の情報・専門性の発揮
要支援 1	<p>* 腰・肩・膝が痛い 痛みなく楽に動きたい。</p> <p>* 家事活動（風呂の掃除・布団干し・ゴミだし買い物等）が負担だ。負担なく家事を行っていきたい。</p> <p>* 何か億劫で横になって過ごしがち、生活に張りが出て来ると良い。</p> <p>* 人と話す機会が少ない。言葉が出にくくなったと感じる 楽しく交流したい。</p>	<p>○ 痛みの原因や悪化の要因と防止のポイントと改善の可能性と自主トレーニング支援。</p> <p>○ 負担のない家事の遂行方法の指導。</p> <p>○ 体力をつけていくための自主トレーニング支援。</p> <p>○ 本人の興味のある活動・生活行為の改善支援。意欲の向上に向けた支援。</p> <p>○ 交流の支援・コミュニケーションの拡大支援。</p> <p>○ 認知症予防活動</p>
要支援 2	<p>* 屋外を不安なく歩きたい。散歩がしたい。</p> <p>* 身の回りのこと（調理・整頓・入浴・洗濯 等）が不安だ。心配なく身の回りのことを自分で行っていききたい。</p> <p>* 義歯が合わずむせやすい。うまく噛めない。むせこみやすい。が、おいしく食べて健康に過ごしたい。</p> <p>* 物忘れや判断の不安があり心配である。認知症を予防したい。</p>	<p>○ 適切な靴や歩行補助具の活用のための助言・どのくらいの距離、場面が妥当かの助言。歩行や転倒の不安の原因や対処の方法、改善へ向けた自主トレーニング支援。</p> <p>○ 不安の原因と対処の方法、改善（実現）の可能性。</p> <p>○ 危険のない生活行為（ADL・IADL）の動線や動作方法・環境や道具の工夫。動作改善に効果的な練習。</p> <p>○ 口腔機能評価と改善へ向けたアドバイス。自分でできる嚥下機能改善体操等の指導。むせにくい食事の助言。</p> <p>○ 認知症予防・認知症短期集中リハビリ</p>
要介護 1	<p>* 屋内を一人で安全に歩きたい。</p> <p>* 昼夜ともトイレで心配なく排泄したい。</p> <p>* 自宅で心配なく入浴したい</p> <p>* 自分にもできる家事役割を果たしていききたい。</p> <p>* あきらめていた活動（釣り・農園芸・旅行・料理・</p>	<p>○ 歩行能力の評価、転倒のリスクと改善の可能性。安全に移動できるための環境改善の助言。起居移動改善のための練習。具体的な生活行為練習。福祉機器や環境の工夫。</p> <p>○ 具体的な家事行為の練習。生活場面での動線や生活環境・道具の工夫や支援。</p> <p>○ 活動の分析とリスクや可能性の検討と提示。具体的な生活行為の向上や活動の実現に向けた</p>

	<p>喫茶店に行く等)を取り戻して生活に張りを持ちたい。</p> <p>* 失語症があるがうまく話して周囲と交流していきたい。</p>	<p>支援・練習支援。</p> <p>○失語症の評価と効果的な練習。周囲の理解と話が進むための留意点の助言。</p> <p>○認知症予防・認知症短期集中リハビリ</p>
要介護 2	<p>* 転ばずに歩きたい。</p> <p>* 心肺機能を改善し、元気に過ごしたい。</p> <p>* 家族に負担をかけずに外出したい。映画を見に行きたい。旅行がしたい。</p> <p>* 昔行っていた 行ってみたかった活動に取り組んでみたい。</p> <p>* 心配なく外食がしたい。</p> <p>* 物忘れが心配だ。状況をよく理解して自分で考えて判断していきたい。</p> <p>* 思い込みや思い違いがあり生活に支障がある。気分穏やかにうまく暮らしていきたい。</p>	<p>○歩行能力との実用性判断。歩行補助具の検討や歩行補助方法の指導。</p> <p>○心肺機能に応じた運動活動量の指導、自覚症状の確認と休息のポイントなど。</p> <p>○できること、できそうなことの提示。具体的リスクの例示。生活行為の向上のための段取り。活動支援。意欲の向上に向けた支援。</p> <p>○嚥下機能評価。食事行為の改善。</p> <p>○認知機能の評価。認知障害を補うための工夫。</p> <p>○認知症短期集中リハビリ</p>
要介護 3	<p>* 麻痺を改善し麻痺側を生活にうまく使っていきたい。</p> <p>* 歩けるようになりたい。</p> <p>* 体力をつけ元気に過ごしていきたい。</p> <p>* 痛みなくスムーズに活動できる。</p> <p>* 一人で不安なくトイレで排泄したい。</p> <p>* 更衣・整容が自分でできる。</p> <p>* 一般浴槽で入浴がしたい。</p> <p>* 家族のために何かしたい。誰かの役に立ちたい。</p> <p>* 失語症を改善したい。うまく交流していきたい</p> <p>* 日中活動的に過ごし、生活のリズムを取り戻したい。夜よく眠れる。</p> <p>* 思い違い・思い込みなく穏やかに過ごせる。</p> <p>* 認知症を改善して朗らかに過ごしたい。</p>	<p>○麻痺の程度と改善予測。(限界の提示)リハビリの継続の必要性や無理のない動作練習の継続。麻痺の自己管理の必要性和指導。</p> <p>○歩行能力の改善に向けた支援。応用歩行場面の練習。歩行の実用性とリスク、代替え方法の検討と提示。体力向上と維持に向けた支援・助言。</p> <p>○痛みの改善。痛みの悪化、再燃の予防。</p> <p>○生活行為向上の支援。そのための基礎練習・応用練習。</p> <p>○本人の能力・可能性の評価 (できること、できそうなことの助言。具体的な方法など)</p> <p>○失語症の評価・練習。交流支援。周囲の理解や支援体制への助言。</p> <p>○日中の活動支援・達成感、次の意欲につながる活動目標の提案。認知機能評価、認知機能維持向上支援。</p> <p>○認知症短期集中リハビリ</p>
要介護 4	<p>* 心肺機能を保ち入院せずに過ごしたい。</p> <p>* きちんと座り、両手が自由に使えると良い。</p> <p>* 安全に自分で移乗できる。(日中だけでも)何とかトイレで排泄できるようになりたい。</p> <p>* 車いすが自分で駆動できるようになりたい。</p> <p>* 洗面所で立って整容を自分でしたい。</p>	<p>○心肺機能、体力の評価・悪化の要因や改善のための支援。</p> <p>○座位の改善。座位活動支援。</p> <p>○起居移動動作の改善。自立に向けた起居移動の方法の検討と練習。</p> <p>○環境や自立へ向かう介護方法の助言。</p> <p>○椅子や車いすの選定と適合(シーティング等)の支援と活用方法、留意点。生活行為向上の支援・練習。</p>

	<p>* 声が出るようになる。あいさつや会話がスムーズにできる。</p> <p>* 自力で安全においしく食べることが出来る</p>	<p>○失語症改善練習。発声機能向上支援。</p> <p>○摂食嚥下評価・練習。食器や環境の工夫。</p> <p>○食べることのリハビリテーション チーム支援。</p>
要介護 5	<p>* 苦痛なく安楽に過ごし、ベッドから離れ気分転換したい。</p> <p>* 心肺機能を保ち少しでも活動的に過ごしたい。生活に張り合いや予定がある毎日。苦痛なく入浴介助、排せつ介助を受けたい。</p> <p>* 口から安全においしく食事をして元気になりたい。</p> <p>* 家族に何かしたい、自分らしさを発揮したい。</p> <p>* 人生の終え終わりは自分らしくいたい。</p>	<p>○安楽なポジショニングの支援と拘縮や褥瘡発生のリスクの評価と予防のための支援。寝返りなど残存能力活用の可能性。</p> <p>○座位能力に応じた（ティトリクライニング等）車いすの選定と適合（シーティング）の支援。座位機能向上支援。</p> <p>○リフトなど福祉用具の活用も含めた移乗方法・移動方法の検討と指導。</p> <p>○生活行為の可能性の提示。活動支援。</p> <p>○介護方法の助言。</p> <p>○摂食嚥下訓練。</p> <p>○食べることのリハビリテーション チーム支援。</p> <p>○少しでも残存能力が活かせる生活場面についての助言。</p> <p>○生きていることの意味ある活動支援</p> <p>○ターミナル期チームリハ支援。</p>

《確認したい事項 お願いしていききたい事項》

「リハビリテーションカンファレンス」については、これまでのサービス事業所内（デイケア・訪問リハ・短期入所療養介護時の個別リハビリ）におけるリハビリテーションマネジメント策定時のスタッフ内の意見の摺合せ、本人家族のニーズに応じたサービス提供のためのカンファレンスの一層の強化が図られると理解しているが、介護支援専門員の開催するサービス担当者会議との整合性が図られる必要があると思う。

一方で、利用者のニーズは生活全般にわたり、またその時期や状況によっても変化をするので、このカンファレンスの内容が限定的な内容にならないように配慮をお願いしたい。

予防給付において地域生活総合支援事業を選択するのか既存のデイケアを利用してリハビリテーション専門職種の個別の機能向上支援を受けたほうが良いのかの選択のポイントについて何らかの示唆があると現場の介護支援専門員は助けになるがいかがか。

どの介護度、たとえ重度の方であっても、様々な活動やトレーニングの支援、家族や支援スタッフがかかわる自宅トレーニングや生活行為向上のための練習内容・方法・頻度や注意点等の指導を充分に行っていたことで、ご本人やご家族・支援者がエンパワーメントされ、自身の課題に適切な知識をもって向き合うことが出来る。ということが私たち介護支援専門員の目指す利用者主体の一つの姿である。この方向性をこれからのリハビリテーション職種のあるべき姿の像に加味していただきたい。

実務者委員

浅野有子

宇治野由美子